

小田原市教育委員会定例会会議録

1 日時 令和6年8月19日（月）午後7時00分～午後8時32分

場所 小田原市役所 7階 大会議室

2 出席者氏名

1 番委員 柳 下 正 祐（教育長）

2 番委員 益 田 麻衣子（教育長職務代理者）

3 番委員 井 上 孝 男

4 番委員 菱 木 俊 匡

5 番委員 秋 元 美 里

3 説明員等氏名

教 育 部 長 菊 地 映 江

教育部副部長 有 泉 三裕紀

教育総務課長 岡 田 夏 十

保健給食課長 吉 澤 太 郎

教育指導課長 中 山 晋

教育指導課指導主事 岩 立 忠

教育指導課指導主事 山 田 ななえ

（事務局）

教育総務課係長 三 浦 慶太郎

教育総務課主任 漆 崎 亜 結 美

教育総務課主任 小 林 洋 輔

4 議事日程

日程第1 議案第20号 令和7年度使用中学校教科用図書（音楽（一般・器楽合奏）・美術・保健体育・技術・家庭（技術分野・家庭分野）・英語・道徳）の採択について

（教育指導課）

5 議事等の概要

（1）柳下教育長開会宣言

○柳下教育長 本日の出席者は5人で定足数に達しております。

なお、本日の傍聴者の定員につきましては、小田原市教育委員会傍聴規則第4条ただし書の規定に基づき、30人とします。

（2）議事録署名委員の決定…2番 益田委員、5番 秋元委員に決定

（3）議案第20号 令和7年度使用中学校教科用図書（音楽（一般・器楽合奏）・美術・保健体育・技術・家庭（技術分野・家庭分野）・英語・道徳）の採択について
（教育指導課）

○教育指導課長 それでは、私から御説明申し上げます。

7月31日の教育委員会定例会におきまして、令和7年度使用の中学校教科用図書16種目

のうち8種目について、採択を終えたところです。本日は引き続き、音楽一般・音楽器楽合奏、美術、保健体育、技術・家庭、英語、道徳の残り8種目について、小田原市の生徒にとって最もふさわしい教科書を採択していただきます。

説明は以上です。

(質疑・意見等なし)

○柳下教育長 採択の方法を確認します。令和7年度使用中学校の教科用図書について、種目ごとに各委員から御意見をお聞きした後に、多数決を行い、候補とする教科用図書を決定していきます。本日予定している8つの種目の教科用図書の候補が決定した後、一括で採決を行います。教科用図書に関する御意見につきましては、皆さんの独自の調査研究をもとに、小田原の子どもたちにとって最もふさわしいと考える教科用図書について、1社または2社について御発言ください。多数決で過半数のものがあればそれを候補としますが、過半数となるものがない場合、再度上位2社または3社による多数決を行います。このような方法で進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○柳下教育長 御異議もないようですので、よろしくお願いします。

それでは音楽一般から候補の決定を行います。音楽一般は、2社が発行しております。それでは委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 音楽は歌や演奏に苦手意識を持たずに音楽を楽しめることに加えて、日常生活にも音楽の楽しみを広げられるような教材であってほしいと思って選定いたしました。その中で、教育芸術社が良いと思いました。1年次の始めに声の出し方について、大きなイラストを用いて説明されていて、変声期について声が出しづらい理由も分かりやすく説明されていました。また、著作権や世界の音楽、日本の音楽と時代背景など、他教科と関連付けられている教材も多かったです。オペラやミュージカル、歌舞伎、文学など、音楽を用いた芸術についても取り上げられていました。また、デジタルコンテンツの内容も良かったと思うので、教育芸術社を推したいと思います。

○菱木委員 音楽は、楽器演奏の得意不得意で好き嫌いが決まりやすい教科なので、そういう生徒も取り組みやすい歌唱分野の練習のしやすさと鑑賞分野に興味の持てるレイアウトや歴史の記載などの工夫がある教科書であれば生徒も嫌いにならずに音楽の授業に積極的に参加できるのではないかという考えで教科書を選択しました。まず、教育出版社ですが、歌唱・鑑賞分野では1ページ目に写真とともに作曲者と作曲した当時の歴史の記載があり、他教科にまたがった知識が得られるようになっていました。また、歌唱・鑑賞分野では学び合う活動例と「Active」が設けられていました。歌唱分野の「Active」では、音の重なり方への意識や旋律のまとまりを生かす表現の工夫等の問いかけが多くあって、知識と技術を習得するための工夫がなされていると思いました。鑑賞分野では、オペラの「アイダ」はストーリー・歴史だけ

でなく、登場人物ごとの声域、バスとかバリトンとかテノールとかメゾソプラノとかですが、誰がバスで、誰がバリトンとか記載されていたので、聞くときにとても分かりやすいと思いました。歌舞伎の勸進帳は文章で内容・あらすじを示しつつ、写真でストーリーに沿った展開を説明していたので、読んでいて非常に臨場感があって良いと思いました。それから巻末資料の世界の音楽の歴史・音楽シーン、日本と西洋の音楽のあゆみも十分に記載されていたので、読み物としての楽しみもある教科書と思いました。

次いで、教育芸術社ですが、歌唱分野ではどの曲にもデジタルコンテンツでパートごとの演奏が聞くことができるようになっていて、練習しやすいと思いました。「花」では、ソプラノやアルト等の演奏の見本があり、練習しやすい配慮がされていると感じました。「歌う際の表現の工夫の仕方・考え方」では、「言葉のまとまりや抑揚を意識して歌詞を音読する」や「楽譜を見ながら聞いたり歌ったりする」等が示されていて、非常に分かりやすいと思いました。また、鑑賞分野では教育出版と同じくオペラはアイダ、歌舞伎は勸進帳でしたけれども、オペラのアイダや歌舞伎の勸進帳ではストーリー・歴史が記載されていて、音楽と時代の背景とのかかわり等、歴史の教科書と学習内容との関連が示されていて、興味を持って音楽の教科書を読み込んでもらえると思って良いと思いました。創作分野ではデジタルコンテンツは自分が創った曲を再生したり、共有したりすることも出来て新しい試みだと思いました。どちらも甲乙つけがたいですが、歌唱分野の練習のしやすさから教育芸術社を推薦したいと思います。

○秋元委員 私は、教育芸術社を薦めます。教育出版も創作分野においては、教材ごとに作品を発表し、コミュニケーションを促すとか、授業に参加する意欲を導き出すような配慮と工夫が非常にされていました。中学生の発達段階に合わせてルビが振られており、題材に適した写真や挿絵が使われていて、とても生徒がイメージしやすい工夫がされていました。教育芸術社は、音楽に重要であるデジタルコンテンツが非常に充実していて、教科書とリンク付けされていることと、自分が制作したものを簡単に再生することができるというのは画期的だと思います。また題材名の横に学ぶべきことが問いとして分かりやすく明記されているので、教える側も教えられ側も何が重要な点なのか分かりやすいと思いました。以上です。

○井上委員 教育出版は楽譜のページにきれいな写真を載せて、イメージしやすい工夫がされていると思いました。音楽は興味がある子とそうではない子がいると思いますが、教科書を広げたときに、学んでみたいと思えるようなイメージが大切だと思います。教育芸術社は、学習する目標が非常に分かりやすく、興味関心がパッと入ってくるような印象を持ちました。学びのコンパスでは、学ぶポイントが示され、考えを深めることもできます。二次元コードでは、伴奏が入っていますが、パート別の音源も聞くことができること、それからワークシートの活用もできるなど、総合的に見て、これらのことから、教育芸術社が良いと思いました。

○柳下教育長 私は教育芸術社が良いと思いました。教育出版も共に学べる工夫というのがあり、学び合うための活動例「Active」が示されているところが良いと思いました。

教育芸術社は、音楽の学習指導要領の中に、生活の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指すとありまして、それからさらに3つの目標があります。1と2は具体的な事項が示されていますが、3番目の項目に音楽の楽しさを体験する、音楽を愛好する心情を育てる、音楽に対する感性、感性とは私は心に感じて思う力

だと思いますが、これを豊かにする、また音楽に親しむということとありました。これは生徒一人ひとりが自分と音楽との関わりを豊かにするということが大事で、好きになるということだと思います。ここでは、歌との関わりの中で、歌うこと、中学校では合唱コンクールなどもありますが、聴くことが好きになる、楽しむことができるということが大事で、併せて自然の音に興味・関心が持てることが重要だと思います。教科書を開いたときに、歌ってみたいとか聞いてみたいとかわくわくするような思いになる楽しさを体験したいという思いが広がるような教科書が良いと思いました。そこで、教育芸術社は、歌唱分野では合唱の編成や各パートの音域について学年に応じた配慮がされていること、特に1年生では変声期に対応できるように作られています。声が変わって歌が嫌いになるということが結構あります。歌は、小学校の1年生や2年生は本当に楽しんで歌います。それが段々学年を経るにつれてうまいとか下手とかそういうことで嫌いになる子が出てきてしまいましたが、もう一つの理由がこの変声期で、そこをていねいに指導できるようになっているということ、それから二次元コードを読むと範唱や伴奏の音源が入っていて、個人で手本と一緒に歌ったり楽しむことができるということで教育芸術社を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、そこで挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

教育出版 … 0票

教育芸術社 … 5票

○柳下教育長 多数決の結果、「教育芸術社」が候補となりました。

○柳下教育長 それでは次に、器楽合奏の候補の決定を行います。器楽合奏は、2社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 器楽は、苦手だと思ってしまうというところで、得手不得手関係なく楽器を楽しめるということが大切だと思います。また、楽器を奏でることで、人生の幅を広げることができるという視点から教科書を見てみました。私は教育芸術社が良いと思いました。巻頭の音楽奏者と評論家の言葉の中で、「音や楽器は身構えるものではない」というメッセージを強く伝えているところが印象的でした。また、リコーダーの運指表が見開きになっていて見やすいので、リコーダーが苦手な子でも取り組みやすいのではないかと思います。また、バンドスコアの題材を使っていたり、笑点のテーマとか、美女と野獣など、中学生が入り込みやすいような題材を選んで扱っていたので、教育芸術社が良いと思いました。以上です。

○菱木委員 教育出版社ですが、見開きの左ページの左上に明確な目標が示されていて、基礎的、基本的な奏法が身に付けられるように練習曲は比較的平易なものが選ばれていて、生徒に苦手意識を持たせないような配慮がなされていました。各練習曲にはデジタルコンテンツが設けられていて、見ながら練習できるので良いと思いました。また、各楽器の最後には「まとめの曲」が掲載されていて、自分が得た知識や技能を生かして表現するという、徐々

にレベルを上げていく構成で、努力すれば段々弾けるようになるという感じがあって良いと思いました。

教育芸術社ですが、巻頭ページに各界で活躍している文化人・音楽家の言葉が掲載されていて、その人物の音楽を通して生き方とか主義主張、価値観とかも書いてあって、楽器に興味がない生徒でも興味を引いて、読めるという構成になっていたのも、工夫がされていると思いました。写真はきれいで、リコーダーの使い方のページでは、十分に余白が設けられていて、先ほど益田委員も仰っていましたが、リコーダーの運指が横並びになっていて分かりやすいと思いました。また、クラベス、シェーカー、カウベル、ボンゴなどの打楽器の奏法の動画もあって、興味深く見ることができると思いました。どちらも甲乙つけがたいのですが、器楽の場合は、最終的にはそれなりに弾けるということが目標になっていますので、楽器演奏に対して苦手意識を持たせずに、徐々にではありますが、奏法を身に付けるような工夫がされている教育出版社を推薦したいと思います。

○秋元委員 私は、教育芸術社をお勧めします。教育出版社の方が、巻頭に日本や世界の様々な楽器が載せられていて、文化等のイメージがしやすかったり、そのような点は良かったと思いますが、教育芸術社の方は文章や楽譜などの近くにイラストや写真があるケースが多くて、学ぶ上で必要な情報へ目が自然といくような分かりやすいデザインになっているということと、二次元コードを読に込むと伴奏の音源が入っていたり、楽器の奏法や演奏映像も見ることができますし、比較的生徒に馴染みのある楽曲が取り上げられているので、親しみやすいと思いました。また、巻頭に音楽家たちの言葉が載せられていて、文化人の生き方や価値観を学ぶために示されているのも良いと思いました。以上です。

○井上委員 教育出版、教育芸術社ともに基本的な奏法の解説が分かりやすく、すぐに楽器に触れてみたい、演奏したくなるようなものが出ていて良かったと思いました。さらに、教育芸術社の方は、楽器の使い方が動画学習で学びがとても分かりやすく確認できて、生徒にとっても親しみやすい曲が数多く掲載されていると思いました。そのようなことから教育芸術社を推したいと思います。

○柳下教育長 私は、教育芸術社を推したいと思います。その理由ですが、学習指導要領の音楽の目標は先ほど申し上げましたが、生活の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指すというようにありまして、内容は、A表現は3つ、B鑑賞は1つあります。A表現は、歌唱の活動を通して、器楽の活動を通して、創作の活動を通してとあります。B鑑賞は、鑑賞の活動を通してとあり、全てが活動を通して、様々な力を育むように指導するとあります。そういう点から、活動が楽しい、活動することでさらに次の活動がしたいと楽しく学ぶことができる教科書が良いと思います。やはり、教科書を広げたときにやってみたいとか、楽しみたいとかそう思えることが重要であると思います。教育芸術社は、図や写真が多く用いられている。それらを活用して知識・技能を身に付けることができる。各界で活躍する文化人、音楽家たちの言葉が載せられていて、興味・関心を高めることができると思っています。生徒に馴染みのある曲が取り上げられているところも良いと思います。音楽一般の教科書との関係から同一の教科書の方が生徒の学びや教師の指導のしやすさがあるという点で教育芸術社を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

教育出版 … 1票

教育芸術社 … 4票

○柳下教育長 多数決の結果、「教育芸術社」が候補となりました。

○柳下教育長 次に、美術の候補の決定を行います。美術は、3社が発行しています。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 美術は科目を超えた美術の魅力をどのように伝えているか、また、美術が苦手な子に対する配慮がどのようになされているかという視点から選びました。その中で私は光村図書が良いと思いました。光村図書は、美術作品の写真の使い方が大胆で作品への興味を引くレイアウトになっていると感じました。特に印象的だったのはゲルニカのページです。実際のスペインの町の惨状と作者のピカソの写真の扉を開くとゲルニカの絵が飛び込んでくるという構成になっていて、作者と作品の思いが一体となって視覚を通して伝わってきました。創作が苦手になる理由として、なかなかアイデアが浮かばないという点があるのではないかと思います。その点で光村図書は二次元コードで全国の生徒の作品が多数見られるようになっていて、苦手だと思っている生徒にもヒントになるのではないかと思います。また、ページが開きやすく見やすいので、パタンと開いて創作するということもしやすいのではないかと思います。また、資料編で、技術の知識がコンパクトにまとまっていて、特に最後の日本と世界の伝統色図鑑というところで、日本独自の色の呼び方が一覧となっていて色の豊かさだけでなく、日本語の美しさも感じられるようになっているのが良いと思いました。以上です。

○菱木委員 うまく描けないとか、きれいに描けないとか、作れないとかで美術が嫌になってしまうという生徒がいますが、そういう生徒でも興味を持って取り組めるように、作品に触れたり見たりすることで好きな作品を選んだり、楽しんだり出来る教科書になっているかを視点の一つとして教科書を選択しました。まず、開隆堂ですが、表紙に触れてみると、作品の質感が学べるように、少しボコボコしている特殊な加工が施されていて、生徒に「おっ」と思わせるような作りになっていて良いと思いました。また、見開きページは「風神雷神」等の屏風絵が掲載されていて、迫力があるつくりで良いと思いました。各單元ごとにあるデジタルコンテンツがあり、「はじめに」で導入した後に描き方や作り方も解説されていて、描き方がうまくいかない子にはわかりやすいと思いました。「絵や彫刻」、「デザインや工芸」では、鑑賞のポイントを吹き出しで示していて、生徒同士の対話を通じて鑑賞を深めたり、発想を広げたりすることができるようになっていました。また、「デザインや工芸」では、多くの人にメッセージを伝えるポスター・映像メディア・昭和39年の東京五輪で世界で初めて導入されたピクトグラム、それを会場で示されている競技種目や男性・女性トイレが

一目で分かるようなものを取り上げるだけでなく、その後も世界中で使えるように、作成した日本人が特許申請しなかったデザインですが、それらを取り上げるだけでなく、空間デザインやインクルーシブな社会に向けたデザインの可能性についても述べられていて、美術で学んだことがどのように社会と地域とに結びついているかを問い、生徒が自ら社会貢献ができる契機を得られるように配慮されていました。また、巻末には学びの資料として、「美術史」、「平面から立体・奥行き表現をもたらした遠近法」、遠近法発明前はキリスト教会で見られるステンドグラスのように絵画は平面の絵でしたが、立体感を出すための遠近法についての詳しい解説がありました。さらには、「世界遺産と美術」、「SDG s」等の美術と社会に触れるだけでなく、知的財産、肖像権、最後には情報モラルについても記載されていて、幅広く記載されていて良いと思いました。それから光村図書ですが、表紙の画面いっぱいに美術品が掲載されていて、見開きページにはピカソがスペインの反戦に対する強い気持ちを込めたゲルニカ、さらに風神雷神も掲載されていました。また、日本画の掲載ページですが、全て和紙でできていて、触って学ぶということが意識され、神奈川県の高津市浪裏が出ていて良いと思いました。それから、單元ごとにあるデジタルコンテンツでは生徒の作品や作者のインタビュー、鑑賞ポイントが吹き出しで示されていて、学びやすいという印象を受けました。巻末の資料では、漫画やアニメーションでの表現の工夫方法を示し、「暮らしの中のデザイン・工芸」のコーナーでは、パッケージやポスターといったデザインと社会とのつながりを学べるような工夫もされていました。

以上より、芸術というのは「触って、感じる」、「見て、思う」というのが大事だと私は思いますので、表紙から触れる構造になっている開隆堂を推薦したいと思います。

○秋元委員 開隆堂の表紙は非常に凝っていて、特殊な加工がされていて、とても評価が高かったのですが、見開きで作品を載せたりすることで、とてもダイナミックな作品を視覚で感じることができる、また、解説の文字が大きくて見やすいというところで、光村図書をお勧めします。想像や発想が広がる資料を別冊で持てるということや吹き出しで生徒の思いが要所で載っていますので、共感しやすいヒントがそちらに隠されており、学習のねらいが深められるのではないかと思います。また、生徒が自分の作品について感想を述べることや主張ができること、全ての題材の目標が分かりやすい、簡潔な文章で、3つの観点から示されているのも良いと思いました。学ぶべき重要な点が生徒が明確に分かるように、伝えられるように工夫されているのも評価に値すると思います。以上です。

○井上委員 光村図書を推したいと思います。目に入ってくる写真の大きさや配列がとても良いということと、インパクトのある写真が非常に大きく掲載されている、写真には吹き出しで生徒の思いや制作のヒントが添えられ、学習面でのサポートになっています。「作者の言葉」に、どういう思いで制作したかが書かれていることなども学習の参考になっています。多くの生徒の作品が二次元コードで見られるのも非常に良いと思いました。1年生の教科書にある風神雷神像の写真は迫力があり、美術作品に興味を持ってくれるのではないかと感じました。また、2年生、3年生の教科書には、日本の絵画作品に和紙が使われ、見て、触って、作品の素晴らしさを感じることができる、別冊資料では制作のガイドとしてもとても良く、技法の解説動画も用意されて良かったと思います。以上です。

○柳下教育長 私は光村図書を推薦したいと思います。

開隆堂は、確かな学力が身に付く、生徒が主体的に学習できる、また、美術の学びを広げるという点で良いと思いましたが、光村図書を選びました。その理由は、学習指導要領では最初に大きな目標があってその下に具体の3つの目標があるわけですが、1番目は対象や事象を捉えるということがあります。2番目には豊かに発想しという言葉があります。3番目は私はこれが一番大事だと思うのですが、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにして心豊かな生活を創造していく、そういう態度を養い、豊かな情操を培うとあります。これは、楽しんで学ぶことが重要、絵を描いてみたい、物を作ってみないと心がわくわくするようなそういう教科書、感性が揺さぶられるようなそのような教科書が良いと思います。小さい子はみんな絵を描くのが好きです。それがだんだん描かなくなってきたりするの、上手いとか下手とかそういう観点で見られて嫌いになってしまう子が多いと思うのですが、そういう点でやはり楽しむ、わくわく感ということは大事で、教科書を開いてみて思いが膨らむような絵やイラスト、色がきれいであったり、鮮やかであったり、また、解説が生徒の心にストンと落ちて思いが広がり膨らむような教科書が良いと思いました。そういう点で光村図書は、見開きで作品を載せていて迫力があります。また、生徒の興味関心が高まり想像力が膨らむ、これが楽しむということにつながっていくと思いますし、工夫としては、日本画では、和紙や文字で和の雰囲気を出しています。楽しんで学ぶことができる教科書という点で、光村図書を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

開隆堂	…	1票
光村図書	…	4票
日本文教出版	…	0票

○柳下教育長 多数決の結果、「光村図書」が候補となりました。

○柳下教育長 次に保健体育の候補の決定を行います。保健体育は4社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 保健体育は、中学生という成長が著しいという時期に自分自身の心身の変化への理解を深められ、自分と社会との付き合い方について考えられるかに着目して選びました。4社とも良かったのですが、その中で選んだのは東京書籍です。東京書籍は、導入の「見つける」という部分で自分自身を振り返って考えさせた後に課題を提示し、課題の解決の中で、内容に沿った発問がなされていて、資料等を主体的に読み解き、理解できるようになっていました。またさらに、「活用する」、「広げる」の部分では、学んだ内容をさらに自分自身で深く考えさせるようなつくりとなっていました。題材としても現代社会の課題が取り上げられているということと、他教科との関連のある題材も掲載されていて、中学生がいろ

いゝな興味を得られるような工夫がされていると感じたので東京書籍を推したいと思ひます。以上です。

○菱木委員 私は、東京書籍と学研で迷ひました。

まず学研ですが、「ウォームアップ」で課題を見つけ、「キーワード」等で「学習の課題」を確認・明確化し、同じページに記載されている資料を元に「学習」し、「エクササイズ」で課題を解決し、最後に「学びを活かす」で挙げられた例への対策を考えるという実践を考え、た単元構成で良く練られていると感じました。章の終わりには「章のまとめ」があり、「キーワードとともに振り返ろう」のチェックボックスで自分が学習した項目を確認し、「最後に確かめよう」では、知識の定着のための問題が数問掲載されていて、学習のしやすさも考慮されていると思ひました。見開きの右ページの下に設けられた QR コードの動画コンテンツには各単元に関する動画がまとめられていて、応急処置、感染症予防法等に加え、国立感染症予防研究所、厚生労働省、海上保安庁本部、警察庁等の外部リンクにアクセスでき、様々な知識が得られるようになっていてよくできていると思ひました。

次に東京書籍ですが、示されたキーワード等を参考にして自分で課題を見つけ、資料や D マークコンテンツを元に思考・判断・表現等を意識しながら学習し、習得した知識・技術を挙げられた例に対して活用し、学習・活用したことを生活に当てはめて、対策を立てることにつなげるという単元構成でした。学習しやすく、各章の章末資料もきれいにまとめられていて良いと思ひました。D マークコンテンツには他教科リンクが貼られ、他教科のとの関連も示されていて、教科相互の関連が図れるように配慮されていました。心身の発達・機能で掲載された解剖図譜は精密過ぎると保護者から苦情がくる可能性もありますが、リアル過ぎずかつ分かりやすく書かれていて、よくできていると思ひました。疾病では、生活習慣病・禁煙・飲酒から薬物乱用にまで触れられ、世界の教科書の標準に合わせたのではないかと思ひました。さらに熱中症・感染症と幅広く簡潔に記載されていて良いと思ひました。巻末のスキルブックではリラクゼーション、手洗いの仕方やマスクの付け方、心肺蘇生法、A E D、熱中症の応急処置など日常で触れるようなことが動画で示されていて良いと思ひました。また、インターネットによるトラブル等が取り上げられ、スキルブック内の D マークコンテンツで動画確認ができて有用性が高いと思ひました。

以上からイラストの見やすさや解剖図譜のでき栄え等を考慮して、私は東京書籍を推薦します。

○秋元委員 私は、大修館と学研とで悩みましたが、学研をお勧めします。

大修館は、冒頭に課題を設けているところで、興味関心を高めながら思考を促すような仕組みがあることはとても良いと思ひました。

学研は構成が「ウォームアップ」から「学びを活かす」という 5 段階あって、取り組むのに学習しやすいと思ひ、工夫が感じられました。心肺蘇生法や傷の手当など、非常に日常に必要な知識を習得するために、実體体を動かして身に付ける「実習」という章も大変分かりやすいイラストと写真で解説している点やデジタルコンテンツで動画を用いて学習できるところが評価につながりました。ウェルビーイングや感染症など、社会の変化に応じた課題を

取り上げて学習したことを自分の生活と結びつけて考えるようにできているところも良いと思いました。以上です。

○井上委員 私は、スポーツの力によって子育てや心身の健康、社会の関わりをつなげていけたら良いと日頃から思っていて、子どもたちにもスポーツの意義というものを考えてもらって、学んでほしいと思っています。

学研の教科書は、巻頭の写真で、「スポーツには、世界を変える力がある。」というインパクトのあるスポーツを学ぶための意義がしっかりと示されていました。「ウォームアップ」で何を学ぶのかを示していて、たくさんの資料、写真、イラスト、グラフ、コラムなどでより学びが深められるようになっていました。ウェルビーイングの重視で、この時期に学んだことを生涯忘れずに小田原の子どもたちに学んでもらえるような教科書だと思いましたので、学研を推したいと思います。

○柳下教育長 私は、学研と東京書籍と迷いましたが、学研を推したいと思います。

東京書籍は、対話を通して「思考力・判断力・表現力等」を育む発問が多く設定されていて、仲間とのコミュニケーションを取りながら課題解決に向けた取り組みができるよう工夫されている点が良いと思いました。

学研を選んだ理由ですが、学習指導要領では、「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する」とあります。そして3つの具体目標の中で特に大切なことは、「各種の運動の特性に応じる」ということだと思います。その次には「生涯にわたって運動に親しむ」、「健康の保持増進と体力の保持」とありますが、教科書で大切なことは、スポーツの運動特性をきちんと捉えた、そういう楽しい授業を生徒がすることでスポーツが好きになると思います。私は、小学校の教員だったのですが、小学校1年生でこういう授業を見ました。サッカーをやっているのですが、スポーツ少年団に入っている子が何人かでサッカーをやって、何もボールを触らない子がいるのですが、勝ったというときだけ喜んでいる。全く特性に触れていないです。一人1個ずつボールを与えて、1時間思いっきり蹴ってごらんと言ったら本当に楽しんでいました。それから段々ルールを決めていってみんながボールに触れるような、みんながスポーツの特性に触れられるようなことが最も大事だと思います。また、病気、食、環境、交通事故等、生活の中の問題にしっかりと向き合えるということも求められます。学研の教科書は、課題解決能力を身に付けて、主体的に活動するための「ウォームアップ課題の発見」、「課題確認」、「学習内容の確認」、「課題の解決」、「学びの活用」という流れが、生徒にとって分かりやすく学びの深まりが期待できるというように思います。実習というコーナーで、リラクゼーションの方法や心肺蘇生法、傷の手当など実際に体を動かして身に付けるような工夫が見られました。これらを写真とイラストで分かりやすく解説しているということ、デジタルコンテンツで動画を用いて学習ができる、生徒が楽しく学べる教科書だと思いましたので、私は学研を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	2 票
大日本図書	…	0 票
大修館	…	0 票
学研	…	3 票

○柳下教育長 多数決の結果、「学研」が候補となりました。

(暫時休憩)

○柳下教育長 技術の候補の決定を行います。技術は3社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 技術は、過去から現在までの技術を知って、それを身近なものとして捉え、どのようにそれらを未来に活かしていくことができるかという視点から選びました。私が良いと思ったのは、東京書籍です。東京書籍の冒頭にある、「技術分野のガイダンス」では、様々な角度から技術を捉えていて、生活や社会における技術を取り上げることで、技術の工夫に気付くことができるようになっていたと思いました。学習のまとめの最後では、「生活に生かそう」という問いがされていて、学んだことを自分事として捉えられるようになっていました。デジタルコンテンツでは、右利きの生徒だけではなく、左利きの動作を表した動画も掲載されていて、利き手によらずに基礎的な動作が習得できるような配慮がされていました。また、社会で活躍する技術に携わる方のメッセージが「技術の巧」のページに載っており、キャリア教育にもつながっていると感じました。以上です。

○菱木委員 私は、東京書籍と開隆堂で悩みました。

まず、東京書籍ですが、編の始めに大きなイラストが掲載されていて、その編で学ぶこと、見方・考え方を示して各章につなげ、各章では、目標、学習課題、図・デジタルコンテンツを元にした本文学習、調べてみよう、まとめようという流れで、どの章でも同じレイアウトになっていましたので、非常に読みやすい構成だと思いました。各章の終わりには、「学習のまとめ」で習得した知識を定着させて、それに続く「技術の巧」のコーナーでは、技術者との対話的な学習もできるようになっていておもしろいと思いました。「テックラボ」の動画コンテンツでは、それぞれの道具の使い方も見ることができ、かつ、左利き用の動画も掲載されていて良いと思いました。畜産、水産業、林業、エネルギー産業とSDGs、プログラミングなど技術がどれだけ世の中に浸透しているかなどにも触れていて、自分で問題を解決していく力を付けていけると感じました。

それから開隆堂ですが、構成は東京書籍と似ていて、編の始めは見開きで左ページの大きな写真とその編で取り上げるものの歴史を掲載し、右のページで学習の流れ、見方・考え方を示し、それから各章で学習の目標・学習課題が掲載され、図・デジタルコンテンツなどで学習を進め、最後にチェックという構成で、学びやすいという印象を受けました。章末資料の「生物育成の技術」では、各作物の栽培時期だけではなく、品種改良による苺栽培の広がり、各地域の苺ブランドまで示されていて、地理等の他科と関連付けられていて良いと思い

ました。各章の終わりには「学習のまとめ」があり、小問題では章で学んだ知識の定着が図られ、インタビューでは家具の製造・農家の生産者や工業製品・プログラムの開発者の声も取り上げられていました。特に良いと思ったのが巻末の「技術分野の出口」で、様々な技術をどのように組み合わせて社会に反映させたかという実例が挙げられています。接着型のサイボーグとか、目の悪い人が歩きやすくなるようなデジタル白杖などがあり、実生活の中でハンディキャップがある方もない方と同じように生活できるように技術が用いられていることを実感できる記載があり、非常に良いと思いました。

以上のことから現代社会の技術導入等が実感できて、技術の大切さも知ることができる開隆堂を推薦します。

○秋元委員 私は、開隆堂をお勧めします。教育図書も基礎や基本の知識と技能を習得できるようになっていて、幅広い知識や教養を身に付けられて良いと思いましたが、開隆堂をお勧めする理由としては、非常に実践的で、体験的な学習活動が豊富であり、人が豊かに安全に暮らしていくための知識や技能を習得できるように編集されている点です。また、冒頭にあるイラストや写真が分かりやすくまとめられていました。また、作業している最中に修正が必要な場合でも対応できるように、修正方法も取り扱っているところが、工夫がなされていると思いました。以上です。

○井上委員 東京書籍を推したいと思います。冒頭のページが非常に分かりやすく、ページの色分けと、同じ色分けでページの端に見出しがあり、検索がしやすい。それから、本文に対する図、写真、イラストが分かりやすい。また、基礎的な技能の確認ができる「テックラボ」、技術の工夫の追加説明、技術の巧は現在社会で活躍している人たちの声が、分野の紹介を介して学ぶ意欲を非常に後押ししている、子どもたちに興味関心が持てるのではないかと、そういう教科書だと思いましたので、東京書籍が良いと思います。

○柳下教育長 私は東京書籍と開隆堂とどちらにしようかと迷いましたが、東京書籍を選びました。

開隆堂は学習の流れが分かりやすく、構成がとても良いと思いました。

東京書籍を選んだ理由ですが、学習指導要領の中に、一番最初に「生活の営みに係る見方や考え方」ということ、「より良い生活の実現」ということ、「生活を工夫し創造しようとする実践的な態度」ということが書かれています。具体の3つの目標は、最初に「生活と技術についての」とあります。二つ目は「生活や社会の中から」、三つ目は「生活を工夫しようとする」とあり、つまり、技術も家庭も生活と結び付けて、生活に役立つ、生活をより良くする態度を身に付けることが重要とあります。東京書籍を選んだ具体の理由は、生活を見つめ直し、自分でできることは自分でやってみよう、工夫しよう、生活の中で課題を見つけて進んで解決していこうとする力が育まれる教科書であると思います。生活実践力が身に付くと思います。中学校に入って初めて学ぶ教科で、学習の内容、学び方が分かることが重要で、それが生徒に分かりやすくていねいに説明されているということ。また、「課題設定」が各節の初めに設定されていて、その単元で何を学ぶかがはっきりしているということ。それから工具を用いた動画では、左利き用のものがあることも良いと思いますし、技術の匠の33人の話も大変興味深く見ましたが、興味関心が高まると思います。また、絵や写真の

配列が良く、これも興味関心を引き、思いを高める工夫がされていると思いましたので、東京書籍を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	3票
教育図書	…	0票
開隆堂	…	2票

○柳下教育長 多数決の結果、「東京書籍」が候補となりました。

○柳下教育長 家庭の候補の決定を行います。家庭は3社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 家庭は、私は東京書籍を推したいと思います。東京書籍は各章の導入で、生活の営みに係る見方や考え方を例示されていて、多角的な視点から考えたり判断したり決定したりして、問題解決に取り組めるようになっていてと感じました。また、家族の多様性についてマンガやアニメを例に挙げて、中学生が身近なものとして捉えやすいような工夫がされていました。また、編の導入の写真が印象的で、その編で学ぶ内容について興味を持たせる工夫がされていました。ページが開きやすいことで、ぱっと見たときに文字の配列やイラスト、写真が見開き2ページで見やすく配置されていると感じました。一番良いと思ったのは、調理実習や布制作の手順が横に配列されていて、3社の中でも一番見やすく、分かりやすく感じたところです。以上です。

○菱木委員 東京書籍ですが、編の初めに小学校の家庭科で学んだことを提示して学習の流れを示し良いと思いました。章では目標、学習課題、資料・図やQRコンテンツを元にした本文学習、「考えてみよう」、「やってみよう」、「調べてみよう」で学習を深めていって、編の最後の「学習のまとめ」で確認問題を解いて知識を定着するという構成になっていました。折り込みページでは6つの食品群と摂取量の目安が提示されていて、各食品群に含まれる食材も写真できれいに掲載され、分かりやすいと思いました。また、「いつも確かめよう」では、調理実習の前に守るべき衛生や安全を写真で納得しやすいように掲載され、調理実習メニューも豊富でした。特に調理手順が見開きで左から右に写真が流れるように掲載されていたので、実習中にそれを見ながら調理ができ、さらに包丁の使い方では左利きを取り上げていたので、よくできている教科書だと思いました。次いで開隆堂ですが、編の初めには大きな見開き写真があり、東京書籍と同じように小学校での学びを提示し、次いで編で学習する内容を提示して、章で目標、簡潔な本文での学習と進み、参考では章と関係の深い歴史・実習例も記載されていて、興味を引くような構成になっていました。折り込みページは6つの食品群と1日の栄養素の必要摂取量が提示されていて見やすいと感じました。「栄養素のはたらき」の最後の見開き164～165ページの「食べ物は体の中でどうなるか見てみよう」の図は

3社の中で唯一記載され、他の会社の栄養素をただ結んでいるだけの記載とは異なり分かりやすく、理科の消化吸収にも関連づけて学べる優れたものになっていると思いました。調理実習の前に知っておきたいポイントの見開きページですが、ページ上方にページまたぎで計画から片付け、評価も載っていて、さらに食事のマナーまで触れられていたので、良いと思いました。QRコンテンツでは、調理の基礎の色々な切り方の動画があり、左利き用の動画も載っていたので、実習するのに役立つコンテンツだと思いました。

以上より、6つの食品群や必須の摂取量だけでなく、理科で学ぶ消化吸収を図で分かりやすく解説し、さらに食事のマナーまで触れていた開隆堂を推薦したいと思います。

○秋元委員 東京書籍、開隆堂ともに実習の手順書が見開きページを使って、横に流れるような構成で見やすかったこと、実習例が非常に多いため、選択する幅が広くて良いと思いました。大変悩みましたが、最終的には開隆堂をお勧めします。その理由としては、開隆堂は体験活動が充実しているところと、実習例では、目に見えない栄養素を視覚的に示すなどの工夫がなされていること、例えば中学生に必要な栄養素と食事などの理解が深まるように、体の中での栄養素の行方がイラストで示されています。また、1日に摂りたい食品と分量を実物大写真で示したりするのは、興味を引きやすいですし、分かりやすいと思いました。そのため開隆堂を推薦します。以上です。

○井上委員 東京書籍を推したいと思います。技術科と同様で、ページの色分け、ページの端に見出しがあり、検索しやすいということが技術科の教科書と共通する点でした。技術を確かめようでは、作業の進め方や学習のポイント、注意点が写真とイラストで見やすく横並びで順序立てて分かりやすい説明がされていると思いました。紙質の違いなのか、食材の写真が鮮明でリアルに感じたような気がします。非常に食材の写真がきれいに見えました。作業がしやすく、興味が持てそうなところから東京書籍を推したいと思います。

○柳下教育長 東京書籍、開隆堂ともに、学習の流れが良く分かって、学びやすいということと、学習の初めの写真は、大変インパクトがあり興味関心が高まると思いました。最終的には東京書籍を選びました。理由は、先ほど学習指導要領のことは申し上げましたが、より良い社会の実現や生活を工夫して創造しようとする実践的な態度を養うということで、生活の中でどういう風にしていくのかということに結びつけることが大事だと思います。技術も家庭もやはり生活と結びつけて、生活に役立つ、生活をより良くする力や態度を身に付けることが重要で、家庭科では生活の営みの中でも衣食住に関することが重要です。東京書籍を選んだ理由は、生活を見つめ直して衣食住に関して自分でできることは自分でやってみよう、工夫しようとする、生活の中で課題を見つけ、進んで解決していこうとする力が育まれる、そういう教科書であって、生活実践力が身に付くと考えました。課題設定が各節の初めに設定されていて、その単元で何を学ぶかがはっきりしているということ、学習の内容、学び方が分かるということが重要で、それが生徒に分かりやすくていねいに説明されている、技術科との関連から、同一会社で同じ流れで学習することが望ましいと考えましたので、東京書籍を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	3 票
教育図書	…	0 票
開隆堂	…	2 票

○柳下教育長 多数決の結果、「東京書籍」が候補となりました。

○柳下教育長 次に英語の候補の決定を行います。英語は6社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 英語は、小学校からのつながりを重視して生徒の興味を引く題材を使用し、英語の苦手意識を持たせない構成を重視して選びました。その中では、開隆堂の「Sunshine」と光村図書の「Here We Go!」が良いと思いました。

開隆堂のSunshineは、行間にゆとりがあって、文章がとても読みやすかったです。本文パートの英文に、日本語でタイトルが付けられていて、テーマをつかんだ上で英文が読めるので、内容を捉えやすいと思いました。プログラムの最後の「英語早わかり」のページで、そのプログラムで学んだ文法がまとめられていて、学んだことの習得がしやすい工夫がされていると感じました。

光村図書の「Here We Go!」は、1年生の冒頭の部分に、子音、母音それぞれの発音の仕方がデジタルコンテンツを使っていていいにされていました。スペルを覚えることに対して苦手な生徒が多いと感じていて、まずそこで英語が嫌いになってしまうということがありますので、発音とスペルをつなげるという学び方は、その後にスペルを習得していく際に有益だと思いました。また、帯教材の「Let's Talk!」などでは、実社会で役立つ即興力や自分の力で話す力、「Daily Life」では日常生活の活用について、身に付けられるように工夫されていました。巻末の「英語の学び方ガイド」では、Q&Aで書かれていて同じ疑問を持ちがちな英語が苦手だと感じる生徒が共感できるような書き方となっていて、学びの道しるべとして役立つのではないかと思います。どちらか大変迷いましたが、小学校からのつながりということもあって、光村図書の「Here We Go!」を推薦したいと思います。

○菱木委員 私は開隆堂と光村図書で迷いました。英語は高校でも履修が必須の科目ですが、高校では文法の授業はなくなっていて、中学校でしっかり文法を勉強しておかないと、高校に進学したときに長文を読解できないということが危惧されますので、私は文法のまとめがしっかりしている教科書が良いと思い、その観点で教科書を選びました。

開隆堂は、各プログラムの1ページ目に大きな写真と「ゴールズ」というプログラムの目標が提示されていました。シーンはマンガ形式で、どういう状況でどういう表現をするのか提示されていて、そこで生徒はストーリーを掴み、パート1、2、3で文章を読み、「レビューアンドリテル」で学んだ文章をもとに英文を作り、「Action」で自己表現、「英語早わかり」で文法や構文を学び、「アワ プロジェクト」で普段の学習が利用出来るような課題を設け、その後にポスターセッションの発表をする等で振り返りまでしっかりできる構成になっていました。取り上げている題材もSDGsを意識した海洋ごみ問題や手話、パラスポーツ

とスポーツなど、非常に多岐にわたり、他教科との横断的な学習がし易く、「Coffee Break」では日本語と英語の擬態語の違い、色を使った表現、パラリンピック、世界で活躍する日本人の記載があり、読んでいて楽しく、学習中に一息するのに良いコーナーだと思いました。

光村図書ですが、各ユニットの1ページ目で取り上げられた題材をつかみ、パート1、2、3で文章を読んで、「ゴール」でレポート等を書く自己表現をし、「Active Grammar」で文法を確認した後に、「Let's Read」で長文の音読、話す・書く、そして読解をし、総合的な英語力を付けるという構成になっていました。「Daily Life」では、実社会で出会う場面が想定されていて、固定電話や注文、道案内など実生活で使える各場面特有の英語表現が学べるようになっていて良いと思いました。さらに「Let's Talk!」や「ストーリーリテリング」に取り組むことで、自分の言葉で話す力が身に付く工夫がされていて良いと思いました。巻末付録の「英語のしくみ」では、日本人にはわかりにくい基本動詞のイメージや広がり、現在進行形と過去形、補語と目的語、不規則動詞活用表等の文法的事項がまとめられ、英語を理解しやすく、受験対策にも使えるようになっていて良いと思いました。

以上より、日本人が非常に分かりにくい基本動詞のイメージや広がりだけでなく、高校では講義自体がなくなってしまった文法を整理して記載している点を考慮して、光村図書を推薦したいと思います。

○秋元委員 私は、光村図書を薦めます。理由としては、分量と配分が無理のないように設計されているところと、A4版で鮮明で読みやすく、配色が見やすく配慮されているように感じました。声や映像のコンテンツには紙面から直接アクセスでき、学習しやすい構成となっており、また、英語の語句や教材箇所を示しているところがネイティブの音声収録されており、再生速度を細かくレベル分けできることも、非常に使いやすい配慮や工夫がなされていると思いました。聞く、読む、話す、書く、それぞれの技能を活用できるように、そのバランスや流れに一貫性を感じましたし、文章の構造や文法がていねいに見やすく整理されていて良いと思いました。

○井上委員 開隆堂、光村図書、三省堂の3社が良いと思いました。特に、光村図書と三省堂について理由を述べたいと思います。

まず光村図書は、日常の身近な話題でストーリー性があり、楽しみながら学べる教科書だと思いました。英語が苦手な生徒や興味を持たない生徒もイラストを見ながらキャラクターと一緒にストーリーに入り、基礎・基本を学べる構成になっています。各単元構成が、話の大筋をつかみ、本文理解から基本文を通してゴールでは振り返り学習ができる構成がとても良いと思いました。また、「Active Grammar」はキャラクターを通じて文法に対するまとめがあり、楽しく英語を使う力が付くと思いました。

三省堂は、1年生の教科書はフォントが大きく、絵や写真は圧迫感がなく、とても見やすいと思いました。1年生の英語の導入にとっても良いと思いました。テーマによって日本の伝統文化、外国の文化、自然や環境を題材にして、英語表現が興味深く学べ、長文対応も1年生の教科書から掲載され、高校入試の対応にもなると感じました。特に良いと思ったのは、デジタルコンテンツで、便利だと考えられるサポート機能が非常に多く入っています。アニメーションで授業の復習、発音チェック、基本文の解説動画、単語の練習、英和辞典、これ

は学習を深めるための用例も参照できるようになっています。A Iを活用した音読判定や自己紹介文を作ったものを判定する機能もあり、画期的だと思いました。個々の家庭学習等でこれらのデジタルコンテンツをこれからの学習にぜひ活用すべきで、英語学習をする上で、子どもたちの学びたいところから、どんなところからも入れるというコンテンツがたくさんあると考えて、三省堂を推したいと思います。

○柳下教育長 私は、光村図書を推したいと思います。学習指導要領の目標の中で、大きな目標があって、その下に3つ目標があるわけですが、全て「コミュニケーション」です。この中に5回コミュニケーションという言葉が出てくるのですが、国際社会の進展やグローバル化は急速な勢いで進んでいます。子どもたちが大人になる頃には、英会話は絶対に必要だと思っています。小田原は、社会力の育成を目指していますが、充実した人生とより良い地域社会を創るためには、必ず英語でコミュニケーションができる力が必要になってくると思っています。学習指導要領で、コミュニケーションがこれだけ取り上げられているのはこういう背景があると思います。生徒たちには英語でコミュニケーションができる力をぜひ身に付けて欲しいという観点から教科書を選びました。小田原の子どもたちには、中学校を卒業する時には英会話ができるように、各校の先生方にはお願いをしています。その現場の先生方の思いは大切にしたいですし、小学校から中学校への学びの連携・継続は重要で、小中学校の先生方は共に同じ思いで指導しています。その連携も大切にしたいと思います。また、ストーリー性がある小学学校から慣れ親しんでいること、目標に向かって、聞く、読む、書く、話す力を身に付けていく構成になっていること、デジタルコンテンツに工夫があり、目指すモデル、個に応じた学び、即興性のある会話があり、学習の定着が図れることが良いと思います。こういう点から私は光村図書を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	0票
開隆堂	…	0票
三省堂	…	1票
教育出版	…	0票
光村図書	…	4票
啓林館	…	0票

○柳下教育長 多数決の結果、「光村図書」が候補となりました。

○柳下教育長 次に道德の候補の決定を行います。道德は7社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 道德は自分のこととして捉えて、多様な考え方を持つ人がいることに気付けるような教材が良いと思いました。その中では、東京書籍と教育出版が良いと思いました。両社ともに題材の後に考えをまとめて記入できるページがあり、自分の考えを見つめて、深め

られるようになっていました。また、東京書籍は、「気付く」、「考える」、「深める」、「広げる」、「振り返る」の流れがあり、グループで話し合い、考えを深められる構成になっていて、教育出版も「学びの道しるべ」で問題意識、自分ごと、これからの生き方について考える構成になっているところが良かったと思います。最終的には、東京書籍を推したいと思います。決め手となったのは、1年生のいじめの題材で、導入の部分で、身近な学校での場面のいじめを考えさせるように、大きな絵で見開きになっていて、より自分ごととして捉えられるような構成になっていたことです。また、一つの質問に対して、多様な意見を提示している題材もあって、多角的な見方があることを考えさせる工夫がされていると感じました。プラスコラムの学習を広げられるコラムも良かったと思います。以上です。

○菱木委員 私は東京書籍と日本文教出版を選びました。まず、日本文教出版ですが、いじめや多様性、よりよい社会、情報モラルなどのテーマに関する題材が取り上げられていました。「学びのキーワード」で気付き、「考えてみよう」を手掛かりに考え、生徒同士で議論し、道徳ノートにメモを取り、「自分にプラス」を手掛かりに、新たに生まれた考えや自分の生き方にプラスしたいことを道徳ノートにまとめる形式で、「自分へのふり返し」で最後に自身の心への影響・成長を確認する工夫がされていました。特にいじめに関しては、1年生では「さかなのなみだ」、2年生では「五月の風」、3年生では「卒業文集最後の二行」という全学年で一貫した題材を取り上げていて、良いと思いました。巻末資料では、小田原箱根エネルギーコンソーシアムや二宮尊徳の報徳思想についても取り上げていて、小田原市の現状・歴史共も記載されている教科書でした。

次いで東京書籍ですが、東京書籍も命といじめに焦点を当てた学習教材でした。題材の右上には学習テーマ、考えよう、見つけ、デジタルコンテンツの中のワークシートで考えをもっと深め、ふり返ってみようという流れで構成されていました。いじめに関しては、1年生では「いじめに当たるのはどれだろう」というイラストを導入して題材を提示し、2年生ではイラスト10枚とアニメで題材を提示し、3年生ではいじめ防止に向けた行動指針を検討する中学生サミットの話し合いと発表を題材として提示といったように学年ごとに題材の取り上げ方を変え、それぞれの学年で深く考えさせる工夫がされていて、良いと思いました。QRコンテンツは、それぞれの朗読やワークシートの他に関連動画でSNSも取り上げられていて、随所に工夫がちりばめられていて良いと思いました。

以上から、様々な題材が取り上げられていて、深く考えさせる工夫ができていた東京書籍を推薦します。

○秋元委員 私は、日本文教出版をお薦めします。道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で主体的に考えられるような内容構成になっていると思います。例えば、問いがノートに印刷されていないので、生徒自らが出したテーマに基づいて考えたり、教師が授業の方向性設定するなど、柔軟な伝え方ができる工夫がありました。教科書が1問目は自分の考え方を明確にし、さらに2問目ではそれを自分ごととして、活かすための問いになっているところが良いと思いました。QRコンテンツが充実していることも理由ですが、特に心情メーターで、思考が可視化できるようになっていることで、心の中で考えていることをうまく言語化

できなくても表現することを補助してくれるツールがあり、自分を見つめて、物事を多面的、多角的に考える手助けをしてくれると思いました。以上です。

○井上委員 日本文教出版を推します。まず、非常に文章が簡潔で読みやすく、子どもたちが読むのに扱いやすい、本文の文章が見開きの2枚になっていてページがまたがらずまとまりが非常に良いと感じました。題材の選択も良いと思いました。本文中のイラストや写真も読者のイメージをサポートし、考えを広げる、効果的な掲載になっていると感じました。「視野を広げて」では、問題提起と考えてほしいことを取り上げて道徳教育としては非常に良いものだと思います。道徳ノートワークシート別冊では、まとめ学習が分かりやすく、各学年の前半、1年生は後半にも少し出ていましたが、いじめと向き合う内容が多く扱われ、お互いを尊重し合う教育は重要だと考えます。そして情報社会の中で、生活をする学び、環境等を考える学びをうまく編集した教科書であると感じました。中学3年生と2年生には、小田原に関する掲載もあり、関心が持てるのではないかと思います。以上です。

○柳下教育長 私は、日本文教出版と東京書籍と迷いましたが、日本文教出版を推したいと思います。

まず、学習指導要領では、より良く生きるための基盤となる道徳性を養うとありますが、その先には教育基本法の教育の目的、第1条に結び付くと考えています。学習指導要領の内容は、A～Dまでありますが、Aは主として自分自身に関する事、Bは主として人との関わりに関する事、Cは主として集団や社会とのかかわりに関する事、Dは主として生命や自然崇高なものとの関わりに関する事とあります。小田原市では社会力を育むと言っていますが、充実した人生とより良い地域社会を創る、その育成のために大事なのは関わる力だと言っています。道徳教育を見ますと、まさに学校教育活動全体を通じて行うということで、小田原市では、このことを実践しているわけで、その中で道徳の時間で自分を見つめ直し、これからどうしていくのかということを考えることは、極めて重要で、そういう視点から選びました。

日本文教出版を選んだ理由は、取り上げられている題材が良く、その中の写真やイラストも良くて、生徒の興味関心が高まると感じました。教材が3年間を見通した構成・配列で、学びの深まりが期待できるということと、小田原に関する教材が良いと思いました。二宮尊徳翁を題材としたものがありますが、小田原市では平成10年から二宮尊徳の尊徳学習というのをはじめています。小学4年生で全員が学びますが、そういう関連も図れ、生徒の興味・関心が高まるということで良いと思います。自分ごととして考え、自分を振り返り、今後どうしていくか自覚し、実践しようとする「自分にプラスワン」という工夫がされていることから日本文教出版を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。また、出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	2票
教育出版	…	0票
光村図書	…	0票

日本文教出版	…	3 票
学研	…	0 票
あかつき教育図書	…	0 票
日本教科書	…	0 票

○柳下教育長 多数決の結果、「日本文教出版」が候補となりました。

○柳下教育長 以上により、令和7年度使用中学校の教科用図書については、音楽一般「教育芸術社」、器楽合奏「教育芸術社」、美術「光村図書」、保健体育「学研」、技術「東京書籍」、家庭「東京書籍」、英語「光村図書」、道徳「日本文教出版」が候補となります。この8つを令和7年度使用中学校の教科用図書として採択してよろしいでしょうか。

(異議なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決確定

5 柳下教育長閉会宣言

令和6年9月25日

柳下教育長

署名委員（益田委員）

署名委員（秋元委員）